御霊により教える —— 行うべきことと行ってはならないこと

十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老（1926 – 2004 年）は，御霊により教えるために行うべきことと行ってはならないことを提案しました。

行うべきこと	行ってはならないこと
1. 自分自身の心を落ち着かせ，平安を保つことで，教える時間に集中する。	1. マルタのように心配して，冷静さを失う。ジョセフ・スミスがエマとの間に意見の不一致が生じた後，作業がはかどらなかったことを思い出してください。御霊を招くのは難しいことです。他の懸念で頭がいっぱいになっているときに御霊はやって来ません。
2. 柔和になる。すると「わたしはあなたの思い……に告げよう。」（教義と聖約 8：2）	2. 人から聞いてもらおう，見てもらおうと思って，印象付けようとしてしまう。
3. 生徒と常にアイ・コンタクトを保ち，生徒の声に耳を傾ける。	3. 話すことに一生懸命になりすぎて，御霊か生徒のいずれかの声に耳を傾けられないような状態になる。あなたが御霊に耳を傾けていないときに，生徒がレッスンに耳を傾けることを期待するべきではありません。
4. 記憶に残るように，霊感を受けて，的確で短い言葉を使う。	4. くどい言い回しや表現をする。もし山上の垂訓が全 3 巻にわたる教えだったら，心に響いていたでしょうか。
5. 教えようとしている事柄の要旨を理解する。焦点を与えるべき簡潔な事柄について深く考え，祈る。	5. だれかが価値ある部分を見つけてくれるだろうと願って，「バイキング方式」の教材を用意する。焦点がぼけると受ける側は確信が持てなくなります。
6. 教えられている内容について，関連した応用法やその深く意味するところを伝える。	6. 誰も尋ねていない質問（教師が想定した質問）に答える。
7. 霊感された質問をする。	7. 質問することを恐れる。
8. 御霊の影響を受けているときには，自分の言っていることからも学べるように備える。わたしはマリオン・G・ロムニー管長が様々な場面でこう言っているのを聞いています。「わたしは，自分が聖霊の導きを受けて語っているときは，いつもそれを自覚しています。それは，自分の言ったことから常に何かを学んでいるからです。」（ボイド・K・パッカー，Teach Ye Diligently〔1975 年〕，304 で引用）	8. 生徒の前で深く考えることを恐れてしまう。
9. 意識的に間を取る。御霊は独自の方法で「まだ見ていない事実を確認」してくれます（ヘブル 11：1）。	9. 霊感を受けた沈黙をも恐れてしまう。
10. 教義自体に語らせる。「神が明らかにされた全ての原則は，それらが真実であることを人の心に確信させる力を持って〔いる〕。」（『歴代大管長の教え—ブリガム・ヤング』78）	10. 教義の「安売り」で終わってしまう。
11. 適切に，具体的に，自分の証を述べる。	11. 「わたしには証があります」とだけ言う。

ニール・A・マックスウェル，"Teaching by the Spirit— 'The Language of Inspiration'"（CES Symposium on the Old Testament，1991 年 8 月 15 日）4 – 5 を基に編集，si.lds.org）

末日聖徒イエス・キリスト教会 | 宗教教育セミナリー・インスティテュート

© 2016 INTELLECTUAL RESERVE, INC. ALL RIGHTS RESERVED.